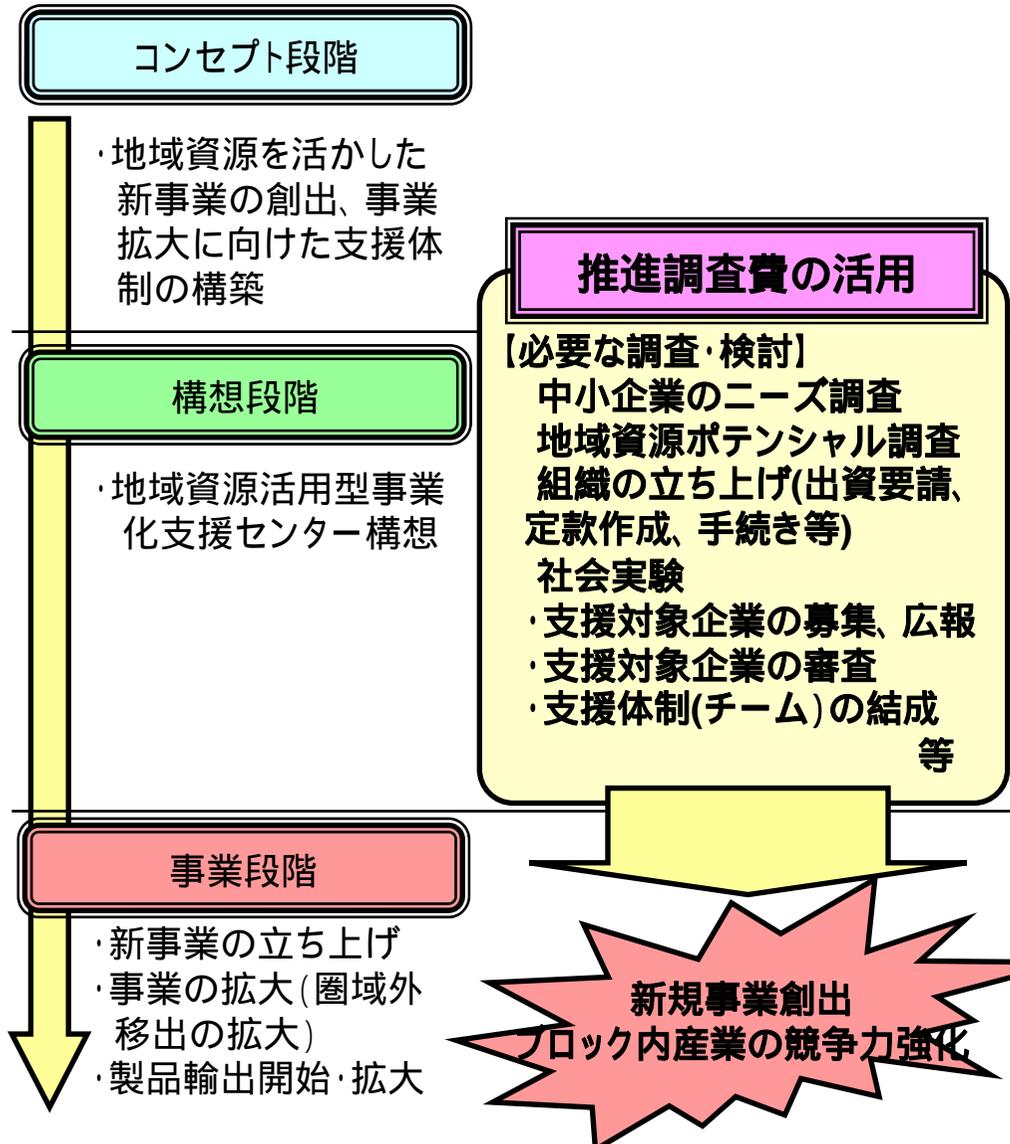


推進調査費の活用例： 地域資源を活用した新産業創出支援センターの事業拡充の推進

地域特有の農水産物や工業加工品などの地域資源を活用した新たな事業の立ち上げを支援するための官民連携によるセンターを創設し、ニーズに合わせた事業拡充を推進し移出・輸出型産業の振興を図る。



< 例えば・・・ >

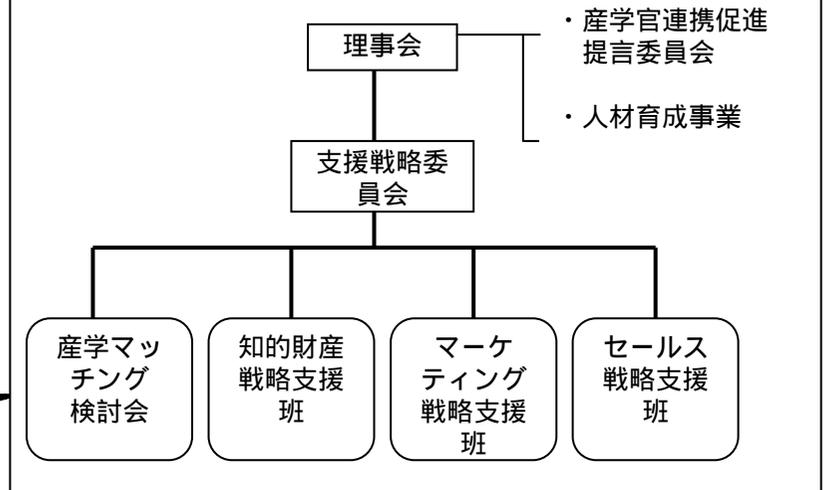
事業化支援センター(仮称)

広域ブロック内の中小ベンチャー企業に対するマーケティング、セールス、知的財産、産学連携に関する支援を実施。

経済団体主導のもと、民間企業、大学、政投銀、県関連財団等で構成される組織。

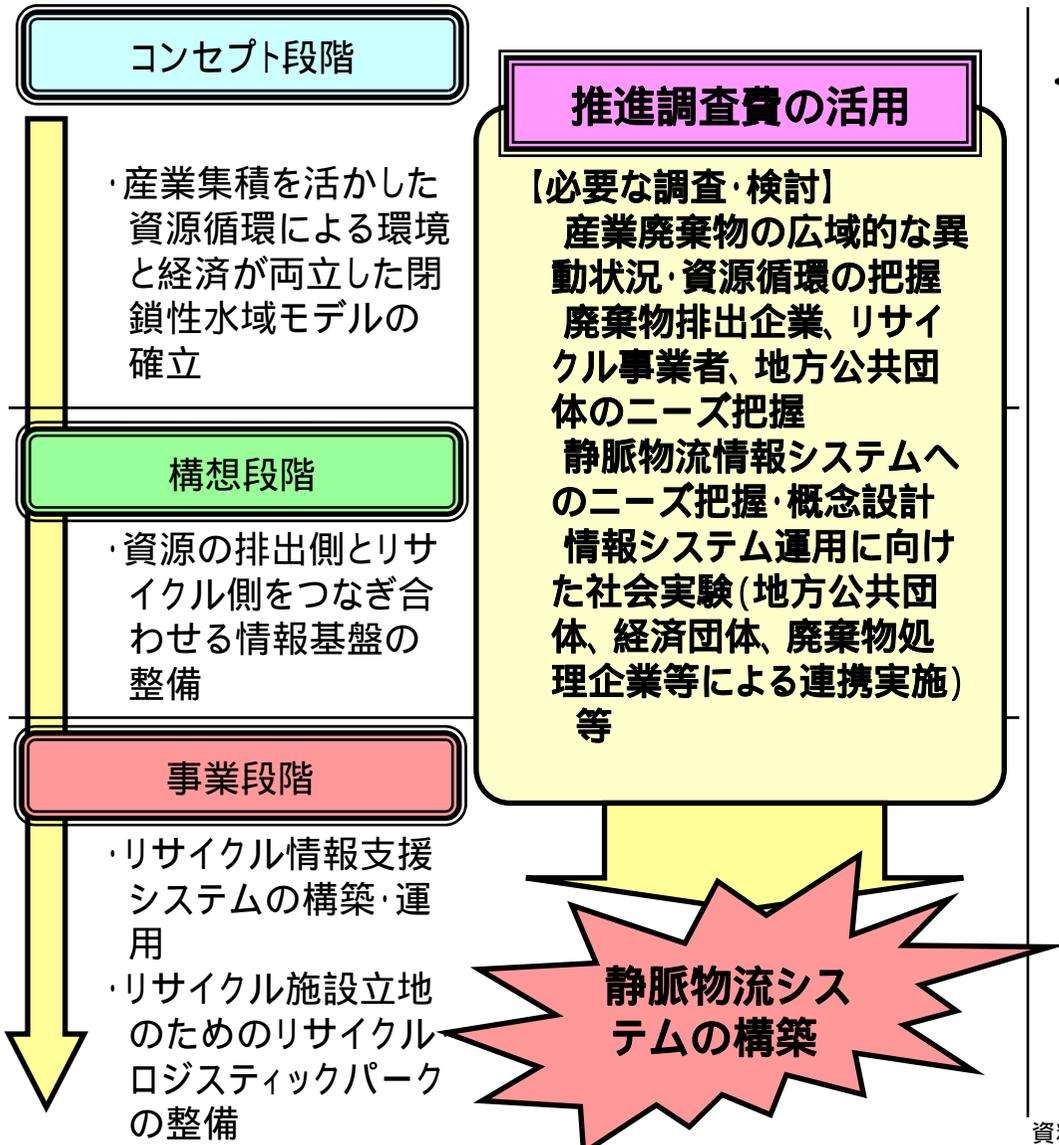
【事業化支援センター(仮称)の組織概要】

約90の産官が運営資金を提供。

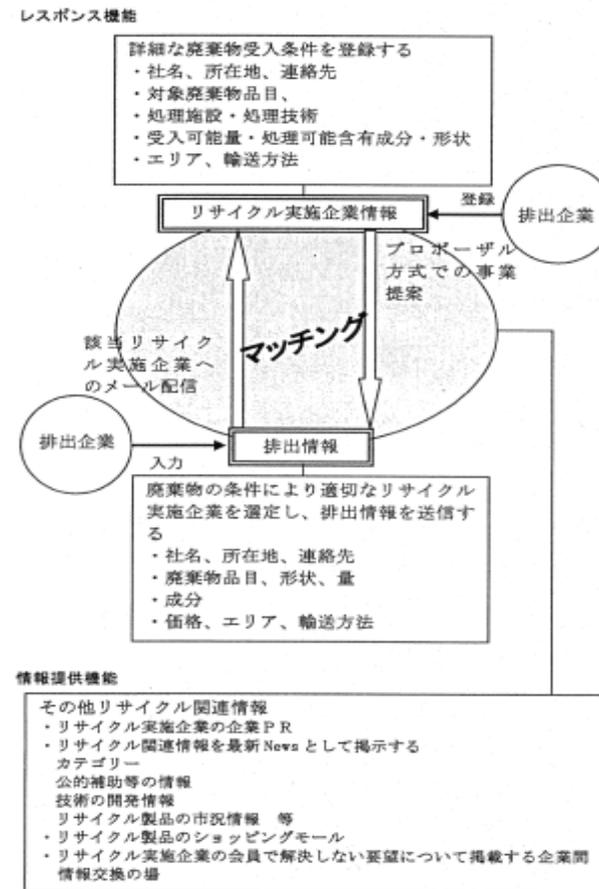


推進調査費の活用例：閉鎖性水域における静脈物流システムの検討深化

裾野の広い製造業が多数立地している特徴を活かし、広域から海上輸送により廃棄物を大量に集めることにより、スケールメリットが享受できるリサイクル施設の立地を図るとともに円滑な運用のためのロジステック・システムの構築を図る。

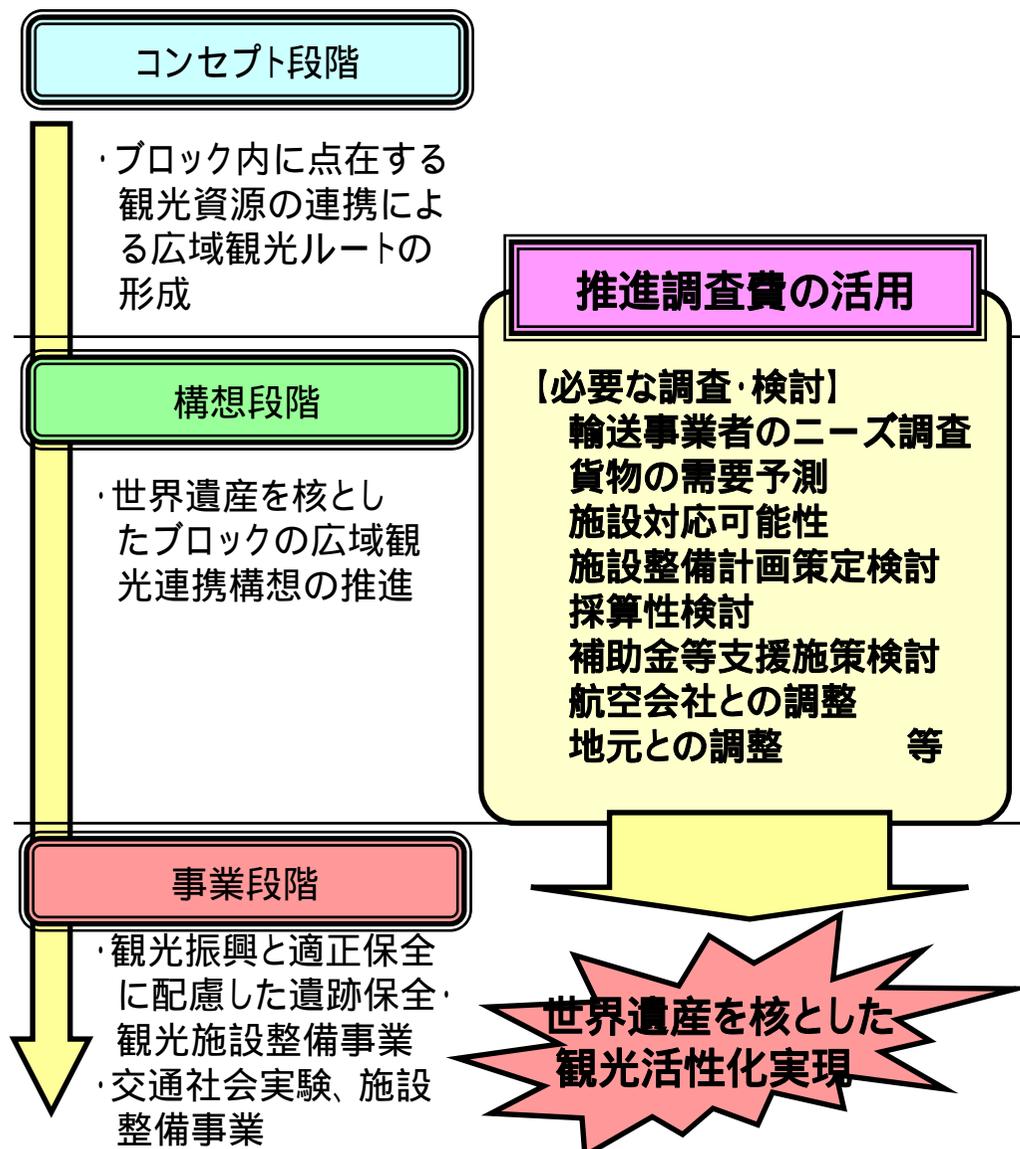


<例えば・・・>
閉鎖性水域におけるリサイクル情報支援システム(仮称)



推進調査費の活用例：世界遺産を核とした広域観光連携事業の推進

地域の歴史・文化的資源の世界遺産登録決定を契機に、これを拠点とする広域観光ルート形成を見据えた受け入れ基盤施設の整備を効率的に進めるための検討、調査、連携・調整に必要な費用に充てる。



<参考：石見銀山遺跡>

1526年に九州博多の豪商により発見されて以来約400年にわたって採掘された鉱山跡。全盛期の16世紀半ばから17世紀前半にかけては世界の算出銀の1/3を占めた日本銀の相当部分を算出したとされる。銀の採掘から精錬まで行われた鉱山跡と鉱山町、これを外敵から守った城跡、積み出し港と港町、それを結ぶ輸送路を含めた全体が遺跡の範囲。銀の生産から搬出に至る鉱山経営の全体を示す遺跡と自然環境が一体となり文化的景観を形成している点が世界的にも貴重とされる。平成19年7月世界遺産に登録された。観光振興と遺跡の適正保存の両立、交通アクセス、受け入れ宿泊施設確保など、急増する観光客への対応が喫緊の課題となっている。



写真：国土計画局